

令和7年度（2025年度）

学校運営自己評価・学校関係者評価 報告書

武雄看護学校 看護科・准看護科

評価対象期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日

1. 学校運営評価の目的

看護師等養成所として教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育の追及を図るため、学校運営評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 令和7年度 学校評価委員

学校委員氏名	所属
太田 光博	武雄看護学校 学校長
檜崎 史彦	武雄看護学校担当理事
草野 謙一郎	武雄看護学校担当理事
山口 聡子	武雄杵島地区医師会 事務局長
末藤 智子	武雄看護学校 副学校長
吉川 優紀	武雄看護学校 看護科 教務主任
平川 千里	武雄看護学校 准看護科 教務主任
西 涼子	武雄看護学校 看護科 教務副主任
古賀 悠華	武雄看護学校 事務

3. 令和7年度 学校関係者評価委員

学校関係者評価委員	所属	区分
持田 和幸	医療法人敬和会 持田病院 副院長	医師会担当理事
重村 剛	重村医院 院長	医師会担当理事
渡邊 成樹	佐賀県立武雄青陵中学校	教育に関する
松尾 竜一	医療法人整肢会 副島整形外科クリニック	卒業生
小野原 大介	白石保養院	卒業生

4. 自己評価基準

各項目の達成度により、下記の5段階で自己評価する。

5（よい）：9割

4（ややよい）：7割

3（普通）：5割

2（やや不十分）：2割

1（不十分）：1割

5. 学校関係者評価方法

自己評価の評価尺度（5段階）に対して、評価が適切か不適切かを評価する。

6. 学校運営評価（自己評価）の内容

- I. 教育理念・教育目的
- II. 教育目標
- III. 教育課程
- IV. 教授・学習・評価課程
- V. 経営・管理運営
- VI. 入学
- VII. 卒業・就業・進学
- VIII. 地域社会/国際交流

項目Ⅰ 教育理念、教育目的

総括

教育課程は、学校の使命である地域で活躍できる看護師・准看護師の育成を軸に、国が求める思考力・創造力を備えた看護職を育成する内容を主軸とし、取り組んでいる。昨年度学年別の到達目標を設定しており、学生便覧や実習要綱に掲載し、目標を意識した学習ができるよう工夫をした。評価を次年度につなげられるようにしていく。

課題・改善策

学年別の到達目標を明らかにしたことで、学生ひとり一人の習得状況と課題が見えてきた。まだ、その評価を十分に指導に活かしているとは言えない状況である。次年度は、学年で到達すべき目標と学生個人の課題を照らし合わせながら、個々の学生の支援につなげていくことが今後の課題である。

小項目 Ⅰ-1

学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、社会の要請に応える内容になっているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合

項目Ⅱ 教育目標

総括

教育目標は学生便覧・実習要綱に明文化し、その内容については入学時オリエンテーションや実習オリエンテーションを通して学生へ説明している。教育目標の到達度については、終講試験や技術試験、実習評価、学校での生活に関することを教員間で共有し、課題がある学生に対してはその都度支援を行っている。卒業時の到達度については、卒業判定に関わる科目の履修のみで評価を行っている。今年度は卒業時の到達目標の評価が、計画的に実施できなかった。共有や評価に関してはまだ弱い面があり、今後の課題である。

課題・改善策

卒業時の到達目標に対する自己評価、他者評価ができていない。
フォームを使用し、国家試験、資格試験が終了した後から卒業日までに評価及び個人面談を行い目標到達度を見ていく。

小項目 Ⅱ-1

卒業時において持つべき看護師・准看護師の資質を、教育目標に明示していると同時に、卒業時の到達状況を分析しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合

項目Ⅲ 教育課程

総括

病院実習では、専用のカンファレンスルームを設けてもらい担当領域の専任教員及び実習調整者が、ラウンドやカンファレンスに参加し実習指導者と共に指導を行った。病院外の施設実習においても、スペースを確保していただき、カンファレンスの実施ができた。実習目標が達成されるような実習環境は、ほぼ整っている。教員数が不足しているため、教員の専門性を活かした実習配置はできていない。

実習指導者と教員の役割に関しては実習要綱に明文化されており、実習指導者に周知を図り実践している。また、実習要綱は、毎年全領域の見直しを行っている。

実習開始の約1カ月前には実習相談会を行い、終了後には反省会を実施している。日々の実習においても、学生の現状、指導に関して各病棟・施設の

指導者と教員間で話し合いながら指導を行っている。

実習指導体制強化については、「これからの看護学生に必要な『考える力』を育てるための関わり」をテーマに研修会を開催した。事後アンケートによると、考える力をどのように与えていくか、発問の重要性について学んだとの意見もあり、有効であったと考える。

実習病院同意書に、個人情報保護・安全性の確保・受持ち患者を希望されない場合も療養上の不利益をおよぼさない事を明記し、同意を得たうえで実習を行った。また、学生は実習における個人情報保護に関するもの、SNSに関する誓約書を記載し実習に臨んでいる。

現在実習要綱にある、実習病院同意書の運営・管理および実習同意書に、受持ち患者に対する倫理的配慮について明示しており、その内容に添って運用できており、受持ち患者様から実習中および実習終了後も倫理的な事柄に関連した苦情の申し立てはなかった。しかし、指導や患者からの苦情申し立てについては、倫理的配慮に関するガイドラインの作成等、検討が必要である。

インシデント・アクシデントについては講義で履修して臨み、実習前には実習オリエンテーションで説明し実習に臨んでいる。インシデント・アクシデント発生時の対応・報告ルートに関しては実習要綱に記載しており、報告ルートの統一化を図っている。実習中はカンファレンス前にインシデントの有無について確認し、インシデントが生じた場合はその場で報告する事で教員・指導者・学生間でインシデント事例を共有している。学生が起こしたインシデントやアクシデントについては、速やかに専用のヒヤリハット報告書に記載し、今後の防止策まで検討し教員間及び学生間で共有を行っている。

また実習前後の安全教育については、実習まとめの時間を活用し、振り返りを実施している。インシデントの分析、指導者との協働については課題がある。

今年度は「学生との良好な関係の築き方」をテーマとして教員研修を实际した。90%以上の教員が参加できた。

近年はオンラインでの講習会が浸透し、積極的に参加ができています。オンデマンドにより、リアルタイムに参加できなかった教員も学会等の視聴ができています。また、受講した教員は、伝達講習を通して他の教員と学びを共有している。

1名の教員（在宅看護領域担当）が訪問看護ステーションでの教員研修を定めている。

令和7年度は2名の教員の授業参観を行い、実施後に意見交換を行った。教員の授業改善につながった。

課題・改善策

ICT教育が進む一方で、SNS上で問題が生じやすくなってきた。

個人情報取り扱いについて、その意義と方法について講義で学んでいるものの、その学びと実習中の行動がむすびつかない場合が多い。学生が直面しやすい個人情報に関する問題について事例を用いて考える時間を作っていく。

小項目 III-1

実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 III-2

実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 III-3

実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 III-4

実習時のインシデントアクシデント等を分析し、学生指導に活かしているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 III-5

学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 III-6

学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 III-7

教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合

小項目 III-8

教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合

項目IV 教授・学習・評価過程

総括

授業計画（シラバス）は各科目ごとに作成しており、ホームページ上で閲覧できるようになっている。定期的な担当者間での授業案の検討はできておらず、教材研究や他の科目と重複内容確認のために必要と考える。

看護科・准看護科の両科共に2カ月以上前に学生はタブレット上で時間割表の確認がとれるようにしている。また、勤務表を作成する施設宛での時間割も配布している。急な予定変更は、HR等で事前に伝えるように工夫している。

各領域別または課程別で授業案や実習指導案を検討している。授業評価の分析や指導方法の改善は、各領域担当者で実施している状況である。担当領域ごとの分析、個人の授業についての分析ができていないため、今後の課題である。授業公開の参観は、全教員が2回または1回できている。

看護科・准看護科の両科共に単位取得および科目履修に向けて、成績不振者には個別指導や面談等に対応している。成績不振者に対して自己分析の結果に基づいた個別対応を行っているが、未履修を抱える学生が増えた。受験者数の減少により、学力による入学者の選抜が不可能になっていることが要因だと考える。最終学年の実習において学習不足や実習態度が原因で未履修になる学生がいることは、改善すべき点があるのだと考える。

准看護科は、個人の学習状況に応じて成績不振者へ早めに面談等を行い学習支援を行っている。学習習慣がなく学習方法から見直し支援しているが、身に付くまでに時間を要する。

科目単位取得や科目履修の条件については、入学時オリエンテーション及び初回講義時に説明している。

演習や実習の評価基準は毎年見直しを行っている。また、評価するにあたって、教員間で演習や実習の状況を共有し公平性・妥当性が図れるように取り組んでいる。

外部講師を含めた授業評価アンケートは、終講試験終了時に実施している。教員は、前年度の授業アンケートをもとに学生の理解につながる授業をめざし改善をおこなった。ただ、『そう思わない』『全くそう思わない』の

評価を受けている項目に対し具体的なコメントがなければ、どこを改善すべきなのかが明確にならない状況である。次年度から、評価基準1・2『そう思わない』『全くそう思わない』については、その理由を書き込めるようアンケート用紙の改善を図る。

課題・改善策

今年度実施した教員各自の授業・演習について課題を持ち寄り、次年度の授業改善に取り組んでいく。また、同じ内容の授業や演習に入り、学生の学びを理解して、准看護科から看護科へつながりのある学びができるよう取り組んでいく。また、アンケート実施により学生が望む授業・演習の形式や強化したい点を知り、授業改善につなげていく。

小項目 IV-1

授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 IV-2

効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 IV-3

授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 IV-4

(看護科)

学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

(准看護科)

全科履修に向けた支援を実施しているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 IV-5

学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価につい

て公平性・妥当性が保たれているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合

小項目 IV-6

学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合

項目V 経営・管理運営

総括

医師会立の看護学校として、地域で活躍する看護師・准看護師の育成を軸とした教育目標を設定し、教職員の共通理解を図って取り組んでいる。

関わる教職員が個人で評価した平均をもって運営評価を決定した。今年度の後期は、『実習中の倫理問題』が課題の一つであった。講義や実習オリエンテーションを通して、学生の倫理観をそだてる取り組みをおこなった。

管理職のリーダーシップのもとチーム力を発揮し問題解決に取り組んでいる。問題発生時には、教職員全体で話し合いをもち、改善に務めた。

受験応募者数の確保に向けてオープンキャンパスや高校訪問、進路ガイダンスに取り組んでいるが、参加者は年々減少している。次年度は、高校の訪問先を拡大し応募者確保に努めたい。

看護師国家試験および准看護師資格試験合格に向けて、対策委員を設け全員合格に向けて臨んでいる。模擬試験、外部講師及び教員による特別講義の実施、個別対応により学習支援を強化している。

入学時オリエンテーションで学費の減免に関する特待生制度、経済面で修学困難者には育英金・奨学金制度について説明し学校継続ために奨学金の活用を促している。

カウンセリングについては、入学時オリエンテーションでカウンセリング日の日程、カウンセラーの紹介を行っている。また学生の学校生活・学習・実習などで気になる学生は、面談を行い必要時カウンセリングを勧めている。現在カウンセリングは月に2回実施日を設けており、学生掲示板で告知し朝のHRで、さらに紹介している。カウンセリングを受ける際には、プライバシーに配慮した専用の部屋を用いて実施している。

健康診断をとおして学生の健康状態を把握している。近年では片頭痛・生理痛を訴える学生が多くなった。実習に支障が無いように、実習開始前に受診して医師の指示を受けるよう指導している。

禁煙については医師会敷地内および学校敷地内は全面禁煙をなっており実践

している。現在も感染症が時期によっては増加している。早めの受診により感染拡大に努めている。

予算計画、年間事業計画に基づき適切に行っている。必要時は学校運営会議や理事会等で協議している。授業料について、指定の期日に引落としがなされていない学生には月末までの納入を促している。滞納がある場合には個別の相談に応じ、適切に対応している。

個人情報保護に関しては、学則・細則及び実習要綱の中で規定を明文化している。個人情報漏洩につながるような事案があった場合は、学生と教員で原因・対策を検討し個人情報保護に務めている。ハラスメント事項については、運営委員会や教務会議を通して対策を講じている。

危機管理マニュアルに基づき対応している。佐賀県からの大雨や積雪の情報を得て、早めの対応により危険回避に努めている。避難訓練は、准看護科1年生を対象にして9月に実施した。消防署の指導の下、避難方法及び教職員の役割を確認した。災害時の備えに関しては、使用期限の確認を行い有事に使用ができるように備えている。

学生の意見や要望を運営に反映していくために『学生の声』のシステムを活用している。『学生の声』により寄せられた意見や要望は、運営委員会や教務会議を通して対策を講じている。また、『学生の声』に寄せられた意見・要望は、1回／月学生に公開し改善策を提示している。しかし、今年度は『学生の声』に寄せられた件数が少なく、学生の意見を十分に伺えていないのではないかと懸念している。

耐震基準はクリアできている。スロープの設置も完了している。エレベーターの設備はないが、2階建て構造において、車いすでの昇降は人力を用いて安全に移動が可能である。

指導ガイドラインに沿って、教材・施設設備の環境は整備を行っている。Wi-Fi環境を活用しタブレットを用いた個人ワークやグループワークに取り組んでいる。また、臨床判断能力を身に付けるために、アセスメントモデルを揃え看護技術の演習に取り組んでいる。

学生の福利厚生に関しては、健康診断費、保険料等を予算に計上している。校内施設・設備は、時間外や長期休暇中の利用を可能な範囲で認めている。

蔵書は指導ガイドラインに沿った冊数を揃えている。年に2回蔵書点検を実施し、適切に管理している。内容については、カリキュラムと照らし合わせ、計画的に入れ替えを行っていく。講義や実習に必要な文献の選択や活用方法は支援を行っている。また、利用促進を目的とした情報提供のため、学習環境充実委員会を中心に新刊案内等の情報発信を行っている。

演習を行うために実習室に必要な面積・指導ガイドラインに定められた備品・物品を整備・確保し活用している。また年に2回定期備品点検を行っており、不足分は随時補充できている。経年劣化している備品などは、

計画的に購入計画を立て購入し演習に支障が無いように行っている。学生の技術演習に関しては、登校日に限らず実習室を開放しており、学生の希望する日に演習ができるよう、技術チェック等が両科で重なる時期には練習計画を立て、有効に利用できるよう調整している。

ホームページを中心とした広報活動を行っている。入試情報、カリキュラム、学校生活の動画等、受験生が求める内容を掲載できている。また、学生募集のポスターを作成し、医療機関、高校、近隣施設へ配布した。卒業生からの相談等には個別に対応している。今後の広報活動としてインスタグラムを開設し、学校の情報提供を行っていく予定である。

課題・改善策

ハラスメントや学生が抱える問題・悩みについては、『学生の声』のシステム使用と面談の実施により引き続き対応していく。

『学生の声』の活用しやすさについては、学生に意見を求めながら改善を図りたい。

小項目 V-1

学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-2

学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-3

管理職のリーダーシップのもと、両科主任がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-4

より多くの応募者を確保することに努めているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-5

国試・資格試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-6

経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-7

学生の身体的側面の健康確保に努めているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-8

予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-9

学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-10

災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-11

学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-12

施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-13

教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-14

学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-15

図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-16

実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目 V-17

学校の存在を周知するため、積極的な広報活動をしているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

項目 VI 入学

総括

入学前説明会を1月～3月にかけて、各科2回ずつ実施した。入学前課題についても事前に提示し、入学後の学習に備えることができている。新入生に

は早い段階で個人面談を計画し、支援が必要な学生の把握に努めている。

課題・改善策

入学後、各教員は学生との個別面談をおこない、入学後の学習と生活がスムーズにいくよう引き続き支援に努める。

小項目VI-1

入学生への支援を行っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

項目VII 卒業・就業・進学

総括

卒業生のホームカミングデイについては開催できていない。卒業生の図書利用は可能にしており、職場での研修や研究のための活用されている。卒業生が必要とする支援、相談などは随時行っている。

学生の就職に関しては必要に応じて対応している。近年は管外や県外への就職希望者も増えているが、医師会立の看護学校の設置目的を再確認しながら、地域で活躍できる看護職の育成に努めている。また、入学者向けの県内就職案内一覧は入学時オリエンテーションにて案内し、希望者が閲覧できるように整えている。在校生に向けては、県内就職案内が閲覧できるよう掲示している。

学生の就職に関しては必要に応じて対応している。医師会立の看護学校の設置目的を再確認しながら、地域で活躍できる看護職の育成に努めていきたい。

小項目VII-1

卒業生への支援を行っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目VII-2

卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

小項目VII-3

進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合

項目VIII 地域貢献

総括

近隣施設からのボランティア要請を積極的に受け入れ、学生に周知した上で参加を促している。11月には2回目の学校祭を開催した。多くの住民の方や卒業生に参加いただき、前年度と比較して50名以上の参加者が上回っている。リカレント教育としての講義の公開はできていない。

課題・改善策

学校祭により学生と幅広い世代の地域住民の皆さんとの交流が図れている。引き続き、開催していく。また、企業や自治体からのボランティア活動については、学生へ周知していく。

小項目VIII-1

地域社会の一員として、地域への貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価：適合